

じんけん瓦版 第53号

発効日：2014年6月22日

発行：日本聖公会東京教区 人権委員会

「人権問題から見た原発事故」

5月24日（土）14:00～16:00 牛込聖バルナバ教会ホールにて人権週間講演会「人権問題から見た原発事故」と題して、福島原発告訴団団長の武藤類子さんにお話しいただきました。講演の概要を人権委員の井口司祭より報告いたします。

（1）今、原発では

わたしは福島県三春町に住む武藤類子です。東京電力福島原発事故から三年が経ちました。今、福島では何が起きているかをお話します。

原発事故は人権侵害の極みです。具体的な事例としては、5月21日大飯原発差し止め訴訟は勝ちました。すばらしい判決で、経済より命が優先するという人格権が尊重されました。同じ頃、福島では、東電が地下水バイパスをやると言いました。わたしたちは、いわき市の送電所に地下水バイパスを中止してくれるように陳情しました。地下水は、原発の山側にある高濃度の汚染水タンクの下を通ってきます。東電は、検査後、セシウム1ベクレルまで、トリチウム1500ベクレル以下なら流すとして、1日100トン流しました。東電は、今までトリチウムを年2兆ベクレルも流していたと発表したのには驚きました。汚染水問題は時々刻々と深刻さを増し

ています。凍土壁で原発を囲む計画がありましたが、千億円かかり債務超過になっては株価がさがるからと政府が認め、止めさせました。原発をつくる時、海岸段丘を20メートル削っています。地下水が流れ溢れてくるのは当然でした。汚染水タンクは、フランジ型溶接タンクで、2年半使い続けて汚染水が漏れ出しています。東電は、それを発表しないで隠蔽して汚染を拡大させています。汚染水に関わる労働者が3千人います。実際に汚染水を浴び、危険な仕事をしています。除染労働者より低い賃金で働かされています。下請け仕事で8～10次請けまであり、賃金の搾取が行われています。東電は、労働者の確保が難しくなってきたと言い出しています。今年から、外国人の労働者を働かせていることを認めています。たくさんの労働者をかかえるということは、素人が増えることで、「スパナって何」と聞く人までいるそうです。サブドレン（汲み井戸）の掘り作業で死亡事故がありました。4号機の燃料取り出しでは放射線量80マイクロシーベルトの中で働いています。新燃料はあまり高くない線量ですが、使用済み燃料では死亡するほどの高線量が出ています。燃料プールの中から100トンのキャスクに燃料を収納しクレーンで吊り上げます。東電は、秘密保持のため3回しか報道しませんでした。4号機の半分の燃料が取り出されたと言っています。使用済み燃料のある1～3号機では曲がったものや穴の開いたものがあり、取り出しには困難を極めます。1



2013年9月9日汚染水放出事件で告発

時間に1千万ベクレルの放射能が空中に出ています。

(2) 今、原発の外側では

原発の外側の話をします。帰還困難地域とは、5年間戻れないところです。大熊町や飯舘村には、ゲートがありまして以前は警察官がいましたが、今は警備員の人がいて監視しています。警戒区域のゲート前の線量計では103マイクロシーベルトです。大熊町のゲートは毎日警備され、空間線量は1マイクロシーベルトで警備員が3人います。ここに家がある人は許可を受けて入ります。しかし、突然に、入ってはいけない場所がでてきます。双葉町、第1原発の立地ですが、飼われていた牛が放たれ、高線量にさらされています。被曝地で生きる。家畜が動物が被曝しています。浪江町では、津波を被った家が未だに片付けられず朽ち果てています。居住制限地域は、5年以内に除染して帰るところです。浪江にある家は、地震があって片付けられないのにネズミが入っておしこの臭いがひどい、且つ豚や牛が入り込んでいたようで荒れています。このような家に帰れると思いますか。双葉町の入り口には、「原子力豊かな社会と町づくり」という標語が門に掲げられています。常磐高速道路は、2011年には仙台までつなげようとしたのですが、富岡町の高速道路付近の線量は2.89マイクロシーベルトで約3マイクロシーベルトのところを車が通って行くのです。2011年11月、野田首相は、収束宣言をして除染し住民を住まわせようとした。わたしの住む三春町の小学校の除染をしています。被曝する作業であるのに、自前の服を着て平気で作業をしています。大手ゼネコンは、原発で儲けて、また除染でも儲けています。除染ではゴミが出ます。川内村の除染ゴミ仮置き場



増え続ける除染ゴミ

は、とても美しい田んぼでした。除染のゴミを置くところではありません。青い袋は、5年保つと言われていましたが、3年で破れては草が出てきています。黒い袋が3年耐用のものです。田村市の都路地区は警戒区域で初めて除染が入ったところ。モニタリングがあって、0.4マイクロシーベルトで高いものでした。都路地区は四分の一は警戒区域が解除されています。子どもたちは、学校が元の場所に戻ったので、避難して住んでいるところからバスで40分もかけて通っています。学校給食は、初め他県のものを使っていましたが、測定器で計って地元のものを使うようになりました。給食は地元のものへと戻されたのです。安全を保障するのが本来であると思うのですが、ある議員は「子どもたちが、食べれば風評被害が薄れていく」と驚くようなことを言いました。除染では、8千ベクレルのものまでのゴミは、一般の焼却場で燃やして減量化しています。1時間に2百キロ以上焼却の場合は、環境アセスメントをしなければなりません。鮫川村では1時間195キロにしています。川内村では、1日に2百トン焼却できるものをつくります。ゴミ焼却にも利権が絡んでいます。日立造船がつくっています。どこかで原発とつながっているのです。

三春町では、環境創造センターを福島県がつくりました。この中に、IAEA（国際原子力機関）やJAEA（原子力開発機構）、国立環境研究所が入っています。人々に放射能に対する安全教育をするのです。福島県の小学校5～6年生は必ずここを訪れるようにしています。JAEAは、福島県に100人も派遣しています。学校や公民館に行き、放射線の疑問に答える機関で教育をします。放射線は危険であるが、自然界の何処にでもあるからと共存できるように教育します。わたしたちは、これを監視していきたいと思っています。福島県の子どもたちの甲状腺検査ですが、当時18歳以下で28万人中、甲状腺ガンは50人、疑いが39人、合計89人いました。福島県や政府は、関連を否定していますが、甲状腺ガンが出ていることは現実にあります。2年後ではなく、短期間で行う必要があります。

3年以上経っても仮設住宅に14万人も避難しています。自殺者が増えています。宮城県と岩手県は高くありませんが、福島県では右肩上がりです。仮設住宅で亡くなったり、夫婦で心中自殺した人たちもいます。仮設住宅にいても、川内村では婦村宣言があったので月10万円がでない。賠償が8月から打ち切られます。若い人たちは、新しい地域に住み始めています。高齢者は戻ることができず、仮設に取り残されて食べる物にも困難になってきています。原発事故以前は、山に入ったり、畑で作物を取ったりで費用がかかりませんでした。わたしたちは、緊急援助で食料や湯たんぽなどを差し入れました。自主避難者にも問題があります。帰ってくる、戻ってくることを強要されます。経済的にも困難をきたします。元々居た人たちから肩身の狭い思いをさせられます。対立し、いがみ合いという悲しい状況がおきています。原発事故によって、様々な分断がつけられています。

(3) これでも罪を問えないのですか

一方で、原発の再稼働が言われるのは、政府、東電が責任をとっていないからです。間違いましたと謝罪していません。東電の隠蔽体質は問題です。東電自身が賠償額を決めるというのは理不尽そのものです。わたしたちは福島原発告訴団をつくって刑事責任を問っています。この責任を問わない限り、道理が改まりません。責任追及が大切だと思い、県内で1,324人が提訴し、そして全国に広げて1万4千人の告訴人がありました。わたしたちは、福島地検前で抗議行動をし、東京電力本社前で「自首しろ」と要請しています。東電が犯罪的なのは、2008年に15メートルの津波がくると分かっていたながら堤防建設には膨大なお金がかかるので止めたことです。当時の清水社長はミスター・コストカッターと言われて、対策をせずに事故を引き起こしたのです。これは犯罪です。2013年9月、検察は全員を不起訴に

しました。東京地検で説明会が行われました。わたしたちは、福島地検に告訴しましたので、結論は福島地検からなされると思っていました。ところが、その1時間前に、わたしたちの告訴は福島地検から東京地検に移送されたのです。福島地検で結論が出されれば、福島の検察審査会に提訴できます。原発被害を受けている福島県の一般人から11名の審査員が選ばれ、わたしたちの心情を汲み取ってくれて起訴か不起訴かの審査をします。しかし、東京の検察審査会になると原発事故にあまり関心のない11名の審査員が選ばれる可能性があります。そのような東京の検察審査会に審査を要請しなければなりません。「これでも罪を問えないのですか」という50人の証言を載せた冊子があります。このような本を読んで、わたしたちの苦しみを知ってほしいのです。

(4) 豊かな自然だった

原発事故は人の命の尊厳を奪うものです。原発事故は人の命の権利を脅かすものです。わたしは、チェルノブイリ事故に関心がありましたが、原発から遠いところに暮らして山里に「きらら」を開いていました。食べ物、エネルギー、そして家の電力の半分は自給していました。ソーラークッカーや薪でご飯を炊いていました。お風呂なども、冬以外は太陽熱で沸かしていました。ドングリ食、ドングリカレー、ドングリパンなどいろいろなことをしました。しかし、ドングリ、山菜、タラの芽など、何をとっても放射能が高くて食べられません。第1次産業が直撃をくらい、賠償すればよいというものではありません。福島の海は、暖流と寒流の交わる豊かな漁場でしたが汚染させられました。集団的自衛権、秘密法、このような状況の中で、わたしたちはどうすればよいのでしょうか。何をすればと、自分の問いとして考えて行かなければと思います。長い時間、お聞きくださりましてありがとうございます。

(文責：司祭 井口諭)

関連図書、教区事務所玄関ホールの人権図書コーナーに蔵書しました。ご自由にご活用下さい。

- * 「福島からあなたへ」(武藤類子)
- * 「これでも罪を問えないのですか！」(福島原発告訴団・編)
- * 「IAEAに正しく対処するための参考資料集」(フクシマ・アクション・プロジェクト)

ここまで進んだ「日の丸・君が代強制」！

井黒 豊さんが不当な処分を受けました。

人権委員会では2008年以来、「日の丸・君が代強制」に反対し、超教派で「祈りの会」を開催してきました。メンバーである井黒豊さん(都立高校教員:松戸聖パウロ教会)は、今年の卒業式・入学式で生徒や学校のことを考え、敢えて「君が代斉唱」時に起立することを選択しました。しかし、信仰・良心から「斉唱」や「直立不動」など積極的なことまではできなかつたと苦しい胸の内を語られました。ところが本人の苦渋の選択に対して、東京都教育委員会は「これでもか」と追い打ちをかける追及を行い、まさに「逆らうものは許さない」という姿勢で4月30日に減給1/10・6か月間という極めて不当な「処分」を決定しました。処分をめぐる昨年の最高裁判所の判決では都の教育行政の異常性については指摘がされました。岸田静枝さん(清瀬聖母教会)は、やはり「逆らうものは許さない」という「退職前日の1日だけの停職処分」をめぐる、現在都教委に対し「取消訴訟」を提訴しています。

昨今の社会状況は「日の丸・君が代強制」に象徴される「少数者・弱者の排除」がますます進んでいます。私たちは、今後ともこの問題を私たち自身の信仰の問題としてとらえ、苦しみの中にある友と共に立ち、良心・信教の自由そして個人の尊厳が守られるように求めていきたいと思ひます。

(森田 信也)

第22回 聖公会「女性」フォーラム

ほんとうに夜明けは、きたのでしょうか・・・

1992年から毎年一回開かれてきた聖公会「女性フォーラム」は、今年22回目を迎えます。今年5月の聖公会総会で「女性の聖職者に関わる特別委員会」を設置する事が決議されました。女性の司祭の正当性が遵守されていないとの報告があります。法規改正から16年、本当に夜明けは来たのでしょうか？ミリアムがうたった解放の歌に、今の私たちの状況を重ねるとどんな歌が生まれるのでしょうか。学びの中から一緒に考えていきましょう。「男性」の参加も歓迎いたします。

日時 2014年 7月20日(日) 16:00 ~ 21日(月・祝)

会場 神田キリスト教会

参加費 2000円+食費(20日夕食・21日朝食)

申し込み締め切り 7月5日(土)

申し込み先 西川華織 FAX 03-5370-4466

聖公会「女性」フォーラム準備会

